

# 「家がいいね」 第226号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2023. 3. 3



桃の節句を迎えて、花も目を喜ばせませす。二見では寒風が強く、青空と梅が合います。志摩大王で早咲き河津桜の満開の様子も、撮ってきました。鳥と月も見て下さい。

「こ」は頼る、ときめる。不十分だからこそ。



世の中は、最良を求め続けようとする。と迷い易いものです。難病や癌治療で全国を渡り歩く人は地元の関係が薄くなつて、家の生活を主にする時点になると袋小路に居ると気付きます。在宅医療の相談で大急ぎで地元の繋がりを作り始めることになり、困難に直面します。以前の治療に未練が残り手放せぬせいもあります。地元では不十分と思つたのですが、今「こ」で頼る、と決めて、相手に任せると、出発点になるのではと思いません。過去の手を放さないと、新しい人との手を握れませんか。

私たちが伊勢の在宅チームが、引き受けます

金見と遠藤、

そして院内外のチームです。



私が「鬼平犯科帳」を好きな理由(わけ)

唯一の内科医として精神科病院に通動していた時に、JRの車中で読みふけりました。訳アリの元罪人を手下として使いながら人情熱い警察長官の物語です。長谷川平蔵が部下にねぎらいの言葉をかけるのがイイ所ですが、作者の池波正太郎は「江戸を描けば、ねぎらいは普通だ」と言います。男(人)を磨くとは、日常生活を磨くことである。自分の周り全てのもものが、みんな自分を磨くための「みがき砂」なんだ。それが自分に戻る訳だよ。若い頃に苦労した池波さんが平蔵に重なります。

ナウシカが生きる世界を想像する



肩にテトという名の架空動物(キツネリス)です。アニメ「風の谷のナウシカ」は人類が絶滅間近の世界を描きます。「火の7日間」という全地球の大戦争の後、千年が経ち、地表は猛毒の瘴気を出す腐海として荒れ果て、人類の末裔は辺境の地で辛うじて生存します。子は育たず、隣り合う小国も滅ぼされる前に、相手を滅ぼすと争い続けます。虫を愛する姫君ナウシカは、腐海の中を探検し、奇怪な虫や植物と交流し、人が滅びる意味を知ろうとします。腐海から救いだされたキツネリスに手をかまれながら「怖いんだよね、大丈夫だから」と抱き寄せた後、テトは冒険の同伴者となります。今の時代も権力者は他国に反撃すると、声高に口にします。核ボタンを、その時の感情で押して「火の7日間」が始まらないよう、切に祈ります。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105

メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
<http://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可